

(6) 八東中学校

学 校 長 東 卓志
校内研究代表者 山脇 太朗

1. 研究主題 「認め合い、高め合う 生徒の育成とわかる授業の創造」

2. 主題設定の理由

本校の生徒は素直で規範意識も高く、落ち着いて授業に取り組むことができる。また、部活動や学校行事にも全学年で積極的に取り組んでいる。しかし、「やらなければならない」ことはきちんとできて、自分たちでさらに良いものを作り上げようと創意工夫する力は十分とはいえない。また、日々の学習が「何のために」、「どのように役立つのか」といった意識が低く、将来の自分の姿をイメージできていない生徒が多い。そのため、学校の教育活動全体を通して、学びと自己の将来とのつながりを見通しながら、豊かに生きるための資質・能力を身に付けていくことが課題である。

本年度の学級編成は、第2学年と第3学年がそれぞれ1学級、特別支援学級が2学級であり、生徒一人一人の特性に応じた授業づくりが求められる。今後の指導においては、学校生活や授業の中でお互いに関わり合いを持たせながら、教員が主体的・対話的で深い学びを保障する授業を展開し、生徒にとって困難な課題に対しても意欲的に取り組んでいこうとする前向きな姿勢を高めていくことが必要である。そこで、本校の教育目標である「認め合い、高め合う」を基本とし、「授業と家庭学習のサイクル化」を中心とした授業づくりに取り組んでいくこととした。また、日々の授業における指導方法の工夫改善を行い、生徒の学習意欲や自信につなげていきたいと考え本研究主題を設定した。

3. 研究の進め方と方法

(1) 研究の内容

- ①授業と家庭学習のサイクル化・保小中連携
- ②教科間連携の研究
- ③特別な教科道徳の指導と評価について
- ④特別支援教育の充実

(2) 研究方法

- ①校内研修日の設定（月3回）
 - ◇「学力向上部」「生活向上部」の2部会に全教員が所属し、取組の提案と検証を行う。
 - ◇その他の部会においては、必要に応じて会を開催する。
- ②研究授業を行い、全員が参観する。
 - ◇指導主事を招聘し、指導助言を受ける。
 - ◇研究授業の視点に沿って研究授業を行う。
- ③授業評価アンケート、家庭学習アンケートを行い、取組の検証をする。
- ④講師を招聘して研修会を行う。
- ⑤小中で合同研修、研究授業参観、出前授業を実施する。

4. 具体的な取組

(1) 「授業と家庭学習のサイクル化、保小中連携」の取組

- ①授業と家庭学習のサイクル化
 - ◇各教科で家庭学習が授業に役立っていると感じられる取組みについて研究し、実践する。
 - ◇予習→授業→復習といったサイクル化を意識した授業や家庭学習を実践する。
 - ◇授業と家庭学習のサイクル化について、各教科の実践例をレポートでまとめ校内研修で報告する。〈図1〉
 - ◇家庭学習の取組みの内容を把握するためアンケート集計(3回)を行った。

②小中連携の取組

- ◇小中の研究主任による連絡会を実施し、合同研修等の調整を行う。
- ◇年4回小中合同研修会および職員会を通じて、授業と家庭学習のサイクル化についての在り方を協議した。また、生徒の情報交換や共通の課題を見つけ、その解決方法を小中で検討した。〈図2〉
- ◇小学校への研究授業への参観、数・理・英の3教科の出前授業を行う。

(2) 授業改善と学力向上について

- ◇研究授業を実施し、参観者は授業チェックシートに評価を記入し、指導の改善を図る。また、指導主事を招聘して指導・助言と新学習指導要領の内容理解を進める。
- ◇各教科で全国学力・学習状況調査、高知県学力定着状況調査等の学力分析を行い、課題克服のための取組について考え、今後の指導に生かす。
- ◇放課後の25分間学習（チャレンジタイム）を活用し、国語・数学・英語の基礎学力の定着を図る。また、3年生は10月から1時間の補習を行っている。
- ◇授業評価アンケートを実施（3回）し、各教科で授業に対する自己点検と評価を行う。
- ◇「資料を読み取り、活用する力」の育成を目指した取り組みとして、新聞記事を原稿用紙にまとめ発表を行う。作成した原稿用紙は、地域の学校支援員に点検、評価をしてもらう。

(3) 教科間連携の研究について

- ◇校内研修にて全国学力・学習状況調査、高知県学力定着状況調査等の学力分析や、生徒一人一人の特性に応じた指導法について検討を行い、新学習指導要領で目指す授業の実践を進める。
- ◇教育拠点校等での参観を通してその学校での実践を学び、校内で実践内容を共有し、各教科での授業改善に取り組む。

〈図1〉各教科の実践レポートの形式

単元名	
本時の内容 めあて「○○○」	
予習の課題 「○○○」	(課題の写真)
(授業の板書の写真)	
成果と課題 ○ ●	

〈図2〉小中合同職員会



(4) 特別な教科道徳の指導と評価について

- ◇道徳の研究授業を行い授業の改善に努めた。また、指導主事を招聘して授業の振り返りと指導に関する評価、助言を受けた。
- ◇複数の教員で授業を行い、多角的な視点から評価を行った。
- ◇道徳参観日は全校道徳として実施した。その際、保護者や地域の方にも公開授業として参観してもらった。〈図5〉

(5) 特別支援教育

- ◇「生活単元」の研究授業を通して、全教員で特別支援教育の理解を深めた。また、特別支援教育コーディネーターを招聘し、生徒に必要な支援についての研修を行った。
- ◇中村特別支援学校との交流学习の実施を行っているが、今年は新型コロナウイルス感染症防止のため、作品交流のみとなった。〈図6〉

〈図5〉道徳参観日



〈図6〉中村特別支援学校との作品交流



5. 今年度の成果と課題

(1) 成果

○アンケート結果より、それぞれの項目で肯定的評価が増えた。

生徒のアンケート結果（肯定的評価）

	第1回	第2回
①家庭学習が授業の理解に役立っているか	87%	90%
②家庭学習に意欲的に取り組んでいるか	78%	84%
③授業の中で資料を読み取ったり活用したりしているか	80%	91%

○校内研修では家庭学習のサイクル化による宿題を生かした授業づくりについて、教員同士で実践を共有しながら研究を進めることができた。

○資料の活用、読み取りを意識した授業づくりができるようになってきた。

○予習を生かすことにより、授業の中で生徒が主体的に活動できる場面が増えた。

○小学校の授業を参観する機会が増えたため、教員間で小学校の取り組みについて共通理解することができた。また、中学校より小学校に出向く出前授業を計画的に行うことができた。

(3回)

(2) 課題

●全国学力・学習状況調査、高知県学力定着状況調査では、「資料の活用、読み取りの問題」についての課題が見られた。

●研究授業として、全教科の実施はできなかった。

●小中連携として、今後は生活習慣の確認や分析を行い、実態を共有していくことが必要である。